

## 【最優秀賞】

### 【蛇口をひねれば】

豊田市立保見中学校 三年 大森 智華

私たちは、水を一日にどれだけ目にするでしょうか。普段は気にもとめないことですが、それを考えただけで、水は私たちの生活に無くてはならない存在だとわかります。

「水道水は飲んではいけませんよ。」私は五歳の時から三年間、父の仕事の都合でタイに住んでいるときそう言われました。日本では水道水を気軽に飲むことができますが、タイでは違いました。私は同じように蛇口をひねって出てくる水なのに、何故違いがあるのか疑問に思い、水道に興味を持ちました。

世界で初めて水道が作られたのは、二千年以上前のローマだと言われています。国が大きくなり、人口が増えると、川の水や井戸水だけでは足りず、水不足が問題になったからです。なので、山の水源から直接水を引く工事が行われ、暮らしやすく、衛生的な街になりました。

日本では戦国時代に城下町で初めて水道が作られたと言われています。明治時代になると、汚染された水を飲んだことで感染するコレラが流行しましたが、政府が近代水道を整備し、発病が激減しました。二回にわたる大戦の影響で、水道の整備が停滞しましたが、高度経済成長期に普及率が上がり、私たちは蛇口をひねるだけで水を使うことができるようになりました。

私はタイに住んでいる間、飲み水や料理に使用する水は購入していました。現地の人も水道水は飲まず、購入したり、ウォーターサーバーや浄水器を使用したりしていました。一度父が、お店で飲み物を買ったときに、入っていた水道水で作った氷にあたってお腹を壊したことがありました。タイの水道水の水質は、世界保健機関が定めた水質基準は満たしていましたが、水道管の汚れや劣化など様々な理由で不純物が含まれていることがありました。蛇口から茶色く濁った水が出てきたり、家でお風呂のお湯を溜めているとき、少しくさい匂いがしたりしたことが何

度もありました。また、日本の水道水は軟水が多いですがタイの水は硬水です。硬水とはミネラルの含有量が多い水のことです。石けんと化学反応を起こすことや、髪に残ることがあります。なので、肌がつっぱたり髪がパサパサしたり違和感がありました。帰国して改めて、無色透明で匂いもしない、日本の水道水の素晴らしさに気づきました。

世界には水道水が飲める国は十五カ国しかありません。その事実を知り、とても驚きました。水道水を飲めるようにするには、設備を整える時間や費用、水を浄水処理する高度な技術が必要です。日本の水道水は色度や臭気、健康に影響がある細菌や水銀など五十一項目の水質基準を満たしているか検査があり、水道設備も万全だからこそ安全なのです。

また、発展途上国では水道自体がないことも珍しくありません。世界には約六億人もの人々が池や川、整備されていない井戸などから水を汲んでいます。水汲みをしなければならぬ子供たちは、私が学校で勉強している時間も水を汲んでいます。私は、お風呂、トイレ、洗濯、食事など、多くの場面で水を使います。その際、片道数時間も歩くことはありません。

私は、手を洗うときやお風呂でシャワーを浴びるとき、水を出しっぱなしにしていたことがよくありました。今思うと、とても恥ずかしいです。これからは、節水や水を汚さないようにすることを心に決めました。

蛇口をひねれば安全な水が出る。それはとても幸せなことです。日本は水資源が豊富ですが、無限にあるわけではありません。水を無駄遣いし続ければ、水不足に悩まされることになるかもしれません。恵まれた水道設備、水源を当たり前と思わず、水の貴重さを理解し大切に使用しなければならぬと強く思います。